

第10回「出雲大社御本殿ブルーライトアップ・記念講演会」を開催しました

内分泌代謝内科 講師 おおた みわ
太田 美和
診療科長 かなさき けいぞう
金崎 啓造

11月3日(日)、第10回「出雲大社御本殿ブルーライトアップ・記念講演会」を開催しました。本イベントは、世界糖尿病デー(11月14日)のシンボルカラーであるブルーで著名な建造物をライトアップし糖尿病の啓発を行うもので、世界各地で実施されています。

10年間にわたり、医薬医療の神様が祀られる出雲大社での開催が続けられたことに、関係者の皆様の変わらぬご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

記念講演会では、当科教授の金崎による「糖尿病を正しく理解しよう」という講演に続いて「自分らしく生活を愉しむ～糖尿病と共に～」と題し、当院糖尿病友の会会長がインタビュー形式で体験談を共有してくださいました(写真1)。参加者の皆様はメモを取り熱心に耳を傾けていました。その他、血糖測定会やゆるキャラ登場、神楽上演なども実施し、盛り上がりました。点灯式には数百名の方々が参加され、カウントダウンと共にブルーに輝く御本殿に見入っていました(写真2、3)。

現在、生活習慣のみが糖尿病の原因であるという偏見や誤解(ステイグマ)がまだ残っているのが現状です。私たちはこうした誤解を払しょくし、自覚症状がないからこそ健診の重要性を広め、異常が見つかった場合も安心して受診していただけるよう、多くの方に糖尿病について正しい知識を提供していくことを目指しています。今後も、糖尿病の啓発活動に取り組んでまいります。



講演会の様子



入口でのウェルカムライト



出雲大社御本殿ライトアップの様子

出雲大社ブルーライトアップ 検索 出雲大社ブルーライトアップホームページ

問い合わせ先 内科学講座内科学第一 TEL:0853-20-2183

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2024年12月15日～2025年1月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12月21日(土) 12:50～17:00	第37回島根県がん登録研修会	オンライン開催 アプリケーション:Zoom 会場にはお越しいただけません	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会がん登録部会実務担当者研究会

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

表紙: 地域医療政策センター 教授 近藤 正宏

中表紙
・教授就任のご挨拶
生化学講座座長生化学 教授 加藤 太陽
微生物学講座 教授 飯笹 久

裏表紙
・第10回「出雲大社御本殿ブルーライトアップ・記念講演会」を開催しました
・研修会・講演会・セミナー開催情報



教授就任のご挨拶

生化学講座病態生化学 教授 かとう ひろあき
加藤 太陽

2024年11月1日付で生化学講座病態生化学の教授を拝命しました加藤太陽と申します。就任のご挨拶を申し上げます。

京都大学大学院で2005年にScience誌に論文を発表して以来、JSPS(日本学術振興会)特別研究員SPD区分、JST(科学技術振興機構)さきがけ研究者などを歴任し、島根大学医学部で病態生化学の助教、生命科学講座の准教授として教育、研究に従事して参りました。2022年にはノーベル賞受賞者である大隈良典先生の大隈基礎科学創成財団からフェロー称号を、2023年には歴史ある日本遺伝学会から奨励賞をいただきました。



ゲノムの塩基配列の微小な個人差がエピジェネティクス制御に与えるインパクトを制御のロバストネスと破綻の観点から明らかにし、予測のための一般則を導き出したいと考えています。加えて、ゲノミクスやインフォマティクスを武器に、本学医学部の基礎および臨床講座の研究をサポートさせていただきます。

基礎系の当教室は、分子レベルで病態を理解するために必要な分子細胞生物学Iや生化学等を、代謝生化学と共に担当します。大志を胸に日夜勉学に励む学生の皆さんと接する日々は刺激的で、常に教員の覚悟が試されます。一人ひとりの人格を尊重し、心の通う教育を心がけてまいります。これまで当教室を牽引してこられた浦野健先生の後任という立場に恥じぬよう、教育と研究に邁進する所存です。皆様のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 生化学講座病態生化学 教室 TEL:0853-20-2349

教授就任のご挨拶

微生物学講座 教授 いいざき ひさし
飯笹 久

2024年11月1日付で微生物学講座の教授を拝命いたしました、飯笹久と申します。私は神奈川県出身で、2014年4月に北海道遺伝子病制御研究所より島根大学に助教として着任し、以来、前任の吉山裕規先生と共に微生物学の教育と研究に取り組んでまいりました。このたび教授職を拝命し、日々責任の重さを感じております。

私はこれまで、癌ウイルスであるEBウイルスの研究を行い、ウイルスのmicroRNAが、EBウイルス関連腫瘍に重要であることを明らかにしてきました。今後は、ウイルスmicroRNAの発現を抑える化合物を探索し、抗EBウイルス剤の開発に向け研究を進めてまいります。また微生物学講座は、EBウイルスのみならず、新型コロナウイルス、ピロリ菌、嫌気性菌など多岐にわたる微生物を対象に研究を進めています。腸内細菌叢は最近、炎症性腸疾患や、癌、肥満、糖尿、リウマチ、更には精神疾患に至るまで、様々な疾患との関連性が指摘されています。しかし、これら疾患と関連する腸内細菌叢中の嫌気性菌は培養困難なものが多く、研究は十分に進んでいません。今後は、嫌気性菌の培養法を改良し、臨床の先生方や開業医の方々と連携を深め、大学や病院、更に地域医療にも貢献できればと考えています。



これからも一層の努力を重ねてまいりますので、皆様のご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 微生物学講座 事務室 TEL:0853-20-2147



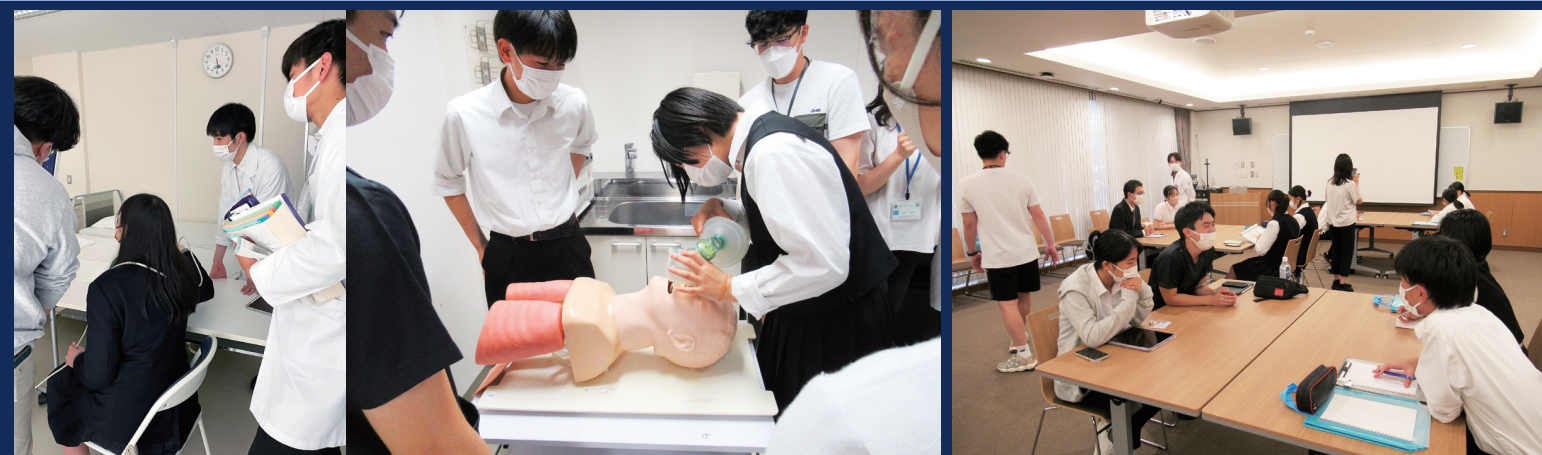
島大病院ニュース 2024年12月

ご報告



島大病院ニュース 2024年12月

ご報告



医療体験

高校生からのプレゼンの様子

横田高校とコラボ授業を行っています

地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江
救命救急センター センター長 岩下 義明

高大連携事業の一環として、学びの意欲の醸成や相互的な学びの場とすることを目的に横田高校と島根大学医学部とのコラボ授業を行っております。2022年から始まり、これまでに4回開催しました。

高校生からは、横田高校について探求学習の様子を発表してもらい、医学生からは大学での生活や、エコー、聴診、挿管などの医療体験を提供しています。

高校生にとっては、専門的な学びの体験を通して進学イメージや学習意欲の向上を図ることができ、医学生は、高校生のレベルの高さに刺激を受け大学での学びを一層深める場となっています。

高校生からは進路や受験について具体的なアドバイスを求められることもあり、医学生も自身の経験をもとに回答しています。また探究活動については毎回、その興味ならびに探求力の深さに驚かされています。

複数回続けて参加いただいている高校生もたくさんおられ、好評のようです。

医学生にとっては普段なかなか高校生と話す機会もないため、お互いの学びにつながる大変良い機会になっています。今後も継続を予定しており、開催時には学内ポスターを掲示します。どうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先 地域医療支援学講座 TEL: 0853-20-2558



心不全多職種連携に関わる スタッフ・心不全療養指導士の育成の取り組み

循環器内科 医師 田邊 淳也
たなべ じゅんや

当院では循環器内科医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、退院支援スタッフ、臨床工学技士などで構成された多職種チームによる心不全患者さんの療養支援に取り組んでいます。

2024年10月4日(金)～6日(日)に開催された第28回日本心不全学会学術集会に心不全多職種チームのスタッフ6名(医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士)で参加し、心不全再入院の原因についての検討や意思決定支援、薬薬連携、個別栄養介入、心不全多職種チームにおける臨床工学技士の役割について、それぞれの経験や取り組みを発表して参りました。加えて、非常に幅広い心不全の内容について最新の知見や他施設での研究発表を聴講し知識を深めました(写真1)。

心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職に必要な基本的知識および技能など資質の向上を図ることを目的として、2021年度より心不全療養指導士認定制度が始まりました。多くの専門職が取得できる資格となっており、循環器内科では資格取得の推進を行っております。

これからも日常診療、多職種連携、地域連携において、心不全患者さんの療養・生活支援がより充実できるよう取り組んで参ります。



心不全多職種チーム

問合せ先 内科学講座内科学第四 医局 TEL: 0853-20-2249



2024年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2024年12月

写真1



写真2



闘病中の
子どもたちに
笑顔を



ホスピタル・クラウンがやってきた!!

小児病棟保育士

つばき あつみ
椿 敦美

チャイルドライフスペシャリスト

くろさき あかね
黒崎 あかね

C病棟6階 看護師長

かげやま みほこ
陰山 美保子

毎月1回、小児病棟にホスピタル・クラウン(※)が来てくれます。今回は、日本ホスピタル・クラウン協会に所属しているKさんこと、道化師の大棟耕介さんが来てくれました。

Kさんは、びっくり箱や皿回し、手品や大道芸などのパフォーマンスを見せてくれ、入院中の子どもたちだけでなく付き添いのご家族や医療従事者も楽しませてくれました(写真1、2)。

不思議なノートを「トントン」と叩くと白紙から絵が現れ、もう一度「トントン」と叩くときれいな色が付く手品では、子どもたちは目を丸くして見入っていました。

子どもに好きな色の風船を選んでもらい、その子の好みに合わせて風船でいろいろな形を作ってくれました(写真3)。これから検査に向かう男の子は、風船で剣と帽子を作ってもらい「楽しい気持ちで行けそう」と話しました。また、付き添いのご家族からは「外に出たいけど出られない状況でしたが、病院の中で楽しいことができ治療の励みになった」とお言葉をいただきました。

子どもたちは自分の意図しない怪我や病気のために入院することになり、とても残念な気持ちになっています。加えて、病院では非日常的な生活を過ごしているため、イライラしたり、悲しい気持ちにもなります。しかし、入院中で制限のある子どもたちであっても、このようなイベントを通して楽しい時間を過ごすことにより、苦痛をひととき忘れることができます。

これからも、病気を持つ子どもたちとご家族が心から笑えるよう取り組んで参ります。

※ホスピタル・クラウンとは、クラウン(道化師)が病院を訪れ入院中の子ども達に対してパフォーマンスする活動のことをいいます。

問合せ先 小児病棟 TEL: 0853-20-2616

写真3



ご報告

島大病院ニュース 2024年12月

新人看護職リフレッシュ研修を開催しました

看護部 看護教育支援室 たけもと かずよ
竹本 和代

新人看護職員が入職して半年が経過しました。職場環境にも徐々に慣れ、実践できる看護の幅も広がっていますが、それと同時に任される業務も増え、不安や緊張は続いています。

そこで、職場を離れリラックスした雰囲気でも新人同士の親睦を図り、仲間としての絆を深めることを目的に、9月26日(木)、国立三瓶青少年交流の家にて新人看護職員リフレッシュ研修を行いました(写真1)。

天候に恵まれ、9月とは思えぬ夏空のもと活動を行うことができました。みんなでアイデアを出し協力しあう「チャレンジ・ザ・ゲーム」(仲間づくりトレーニング)(写真2)や、周囲のことを考えつつ自ら動きチームで協力し、一つのものを作り上げる「バウムクーヘンづくり」(炭で火をおこし、竹に自ら作成した生地を繰り返し塗って焼きあげる)(写真3・4)を行いました。

この研修を通してコミュニケーションの大切さを含め、人間関係を構築する上で大切なことを多く学ぶことができました。何より、同期との交流が図れ、絆も深まり、強まったことで今後仕事をする上での活力になったように感じます。

知識・技術だけでなくリフレッシュや精神面へのサポートをする研修など、今後も働く職員に合わせて研修を組み立て、患者さんやご家族に安心いただける看護が提供できる看護職の育成に取り組んで参ります。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478

写真1



写真2



写真3



写真4



2024年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



お知らせ

隠岐病院との病理診断業務連携のご紹介

病理部 部長 にいの だいすけ
新野 大介

「病理診断」は最終診断として大きな役割を果たします。患者さんの体より採取された病変の組織や細胞から顕微鏡用のガラス標本がつくられ、この標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。そして、この病理診断を専門とする医師が病理医です。

昨年より、病理医の異動などにより当院内の病理医が減少しています。現在4名の病理専門医のみで当院全体の病理診断を行っています。個々の病理医の負担を減少させるために、今年5月から隠岐病院との病理診断業務連携を始めました。隠岐病院には、当院病理部にて勤務経験のある、病理専門医の宇野千恵医師(写真1)が勤務されており、月に4日間来院いただき、切り出しなどの標本作製業務と病理診断業務を行っていただいています。宇野医師のおかげで病理部の業務が円滑に運ぶようになり、大変助かっています。今後、病理カンファレンスや遠隔病理診断などで、当院が隠岐病院の病理をサポートしていく予定です。



写真1 病理診断を行う宇野千恵医師

病理部の業務は、他の診療科・部門・センターとの連携で成り立っています。これからも病理部は一丸となり患者さん中心の医療に貢献できるよう努力していく所存です。引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。

問合せ先 病理部 TEL : 0853-20-2426

糖尿病患者さんの肝がん早期発見プロジェクト

肝臓内科 診療科長 とびた ひろし
飛田 博史

近年、B型・C型肝炎ウイルスの感染による肝がんが減少し、一方で飲酒と糖尿病による肝がんが増加しています。島根県のがん登録を行っている病院に御協力をいただき、「島根県の肝がん患者の実態調査」を実施したところ、2016～2021年の間に初めて肝がんを発症した954人のうち、40%が糖尿病患者さんであることが分かりました。

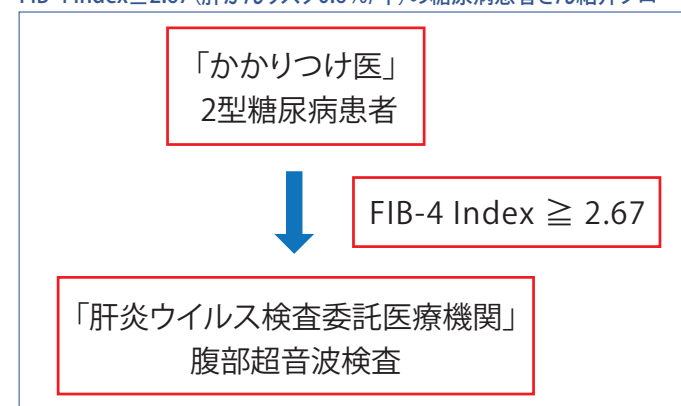
日本糖尿病学会のデータによると、2023年時点での糖尿病患者数は約1000万人に達しており、この数は今後さらに増加する見込みです。糖尿病は肝がんのリスク因子ですが、肝がんのスクリーニング検査として有用な腹部超音波検査を全員に施行することは、患者数が多いために非現実的です。そこで、糖尿病患者さんのなかでも肝がんリスクの高い方を中心に、腹部超音波検査を実施していただきたいと思います。

現在、FIB-4 Index ≥ 2.67 (肝がんリスク0.6%/年)の糖尿病患者さんを、「かかりつけ医」から腹部超音波検査を行う「肝炎ウイルス検査委託医療機関」に紹介するためのフローを構築しています(図1)。

糖尿病診療に携わっておられる医療従事者の皆様方にFIB-4 Indexを御評価いただき、糖尿病患者さんに腹部超音波検査を受けていただくことで、島根県の肝がん粗死亡率の改善が期待できます。御協力の程宜しくお願い致します。

※FIB-4 Indexとは、肝臓の線維化を予測するスコア。
AST、ALT、血小板数、年齢の4項目を組み合わせて計算する。
計算式：
$$FIB-4 = (\text{年齢} \times \text{AST}(\text{IU/L})) / (\text{血小板数}(10^9/\text{L}) \times \sqrt{\text{ALT}(\text{IU/L})})$$

図1 FIB-4 Index ≥ 2.67 (肝がんリスク0.6%/年)の糖尿病患者さん紹介フロー



問合せ先 内科外来 TEL : 0853-20-2381



[FIB-4 Indexの算出方法]





島大病院ニュース 2024年12月

ご報告



島大病院ニュース 2024年12月

ご報告



第49回くえびこ祭を開催しました

くえびこ祭実行委員長 医学科3年 こんどう はつね
近藤 初音

10月19日(土)、20日(日)の二日間で第49回くえびこ祭を開催することができました。テーマを「繋～未来へ あなたへ～」とし、伝統や地域、人々との繋がりを大切にしたい、多様性を認め合ったカラフルな未来を創ってきたいという想いのもと、実行委員会を中心に半年間準備を重ねて参りました。

くえびこ祭は、地域の事業者様・団体様、医学部の講座、附属病院の様々な部署といった多くの方々からのご寄付を頂き、物価高騰のさなか、今年も無事開催することができました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。当日は、医大生と地域の方が交流できる貴重な場であることはもちろん、部活毎に模擬店やステージ発表を行い、絆を深め合う私たちの「青春」ともいえる時間でした。

今年度初めて、2日目のフィナーレで花火を打ち上げを試みました。これは「当日会場に来られない入院患者さんや、地域の方々にも感動を届けたい」という想いから始まり、クラウドファンディングを立ち上げ地域や全国の方からのご支援をいただき叶えることができました。数分間の演出ではありましたが、グラウンドから見た花火は今までで1番きれいな花火だったように感じます。

開催までにはいくつかの試練がありましたが、実行委員そして先生方のサポートのおかげで無事に終えることができました。来年度、節目となる第50回くえびこ祭の成功を期待して、後輩たちへ想いを繋ぎます。

問合せ先 学務課学生支援担当 TEL : 0853-20-2088



寄附贈呈式出席者

第一生命労働組合島根県支部 山崎淳執行委員長

第一生命労働組合島根県支部様より「だんだんハウス」に寄付をいただきました

総務課企画調査係

第一生命労働組合島根県支部様より、当院の小児患者さんの付き添い家族専用の宿泊施設「だんだんハウス」の環境整備のため、寄付をいただきました。10月23日(水)に寄付贈呈式を行い(写真1)、第一生命労働組合島根県支部の山崎淳執行委員長(写真2)から、目録の贈呈がありました。

当院は、山陰唯一の小児心臓外科をはじめ、小児科や小児外科で遠方からの小児患者さんの受け入れ・手術を多数行っています。その際、付き添いをされるご家族は近隣のホテルに何日も宿泊する必要があるなど、経済的・精神的に大きな負担がかかります。当院では、ご家族の負担軽減のため、2017年に病院敷地内入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」を開設しました。

第一生命労働組合島根県支部様は、地域社会に寄り添い地域の方々とともに持続的に成長することを目指して、それぞれの地域に寄り添った課題の解決に向けた様々な取り組みを行っておられます。その一環として、昨年度に続き「だんだんハウス」への寄付をいただきました。

今回頂きましたご厚意に対し感謝申し上げますとともに、これまで以上に地域医療・小児医療の充実に尽力して参ります。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL : 0853-20-2019



2024年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





国公立大学病院附属感染対策協議会 感染対策相互チェックを受審しました

感染制御部 副部長 はだの 羽田野 よしろう 義郎

感染対策相互チェックは従来国公立大学附属病院感染対策協議会の活動の一環として行われてきましたが、COVID-19の影響により令和2年度から不実施となっておりました。今年度4年ぶりに再開する運びとなり、当院が受審校となりました。千葉大学医学部附属病院、高知大学医学部附属病院の院内感染管理担当者の方々にご来院いただき、10月31日(木)～11月1日(金)の2日間にわたり当院の感染対策の状況を評価していただきました(写真1)。



写真1

書面審査、現地調査、職種別のディスカッションを通して同規模、あるいはそれ以上の規模の国公立大学病院の感染制御の専門家の方々と意見交換をさせていただく機会は、感染制御部一同非常に重要な事と認識しています。各大学病院の創意工夫の状況、新たな視点で物事を考えるヒントなどを得ることができ、非常に有意義な2日間でした。

講評では、総じてよい状況であること、その中でも特に評価された部分(手指衛生遵守率の上昇、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動成果など)、さらなる質の向上を目指して改善を要する点などのご指摘を受けました。まだまだ改善していく点は多くありますが、さらなる医療の質の向上のため、引き続き努力して参ります。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 感染制御部 TEL: 0853-20-2091

「令和6年度特定機能病院間相互の ピアレビュー」が行われました

医療安全管理部 部長 おおの 大野 さとし 智

10月24日(木)に、九州大学病院より安全管理担当副院長や副看護部長等4名にお越しいたき、「令和6年度特定機能病院間相互のピアレビュー」の訪問審査を受審しました。

これは、特定機能病院である国公立大学附属病院における医療安全管理の改善を目的として、全国の特定機能病院間で毎年開催されているものです。「医療安全・有害事象」「医薬品等」「高難度」「外部監査」の4項目を中心に、当院の体制整備の状況や課題について、多くの意見交換を行いました。お互いにグッドプラクティスを情報共有するいい機会となりました。

また11月15日(金)には、調査を行う側として、当院医療安全管理部メンバーが岐阜大学医学部附属病院を訪問しました。他施設を調査することで、自施設の課題を見直すこともできました。特に、高難度新規医療技術、未承認・適応外使用の医薬品等の適切な実施に関しては、各診療科医師の当事者意識の醸成、薬剤部や事務部門との緊密な連携など参考となる取り組み(グッドプラクティス)を数多く知ることができた貴重な機会となりました。

特定機能病院間相互のピアレビューを通して得た知識を今後に生かし、島根大学医学部附属病院の医療安全を守っていけるよう取り組んでまいります。



岐阜大学医学部附属病院でのピアレビューの様子

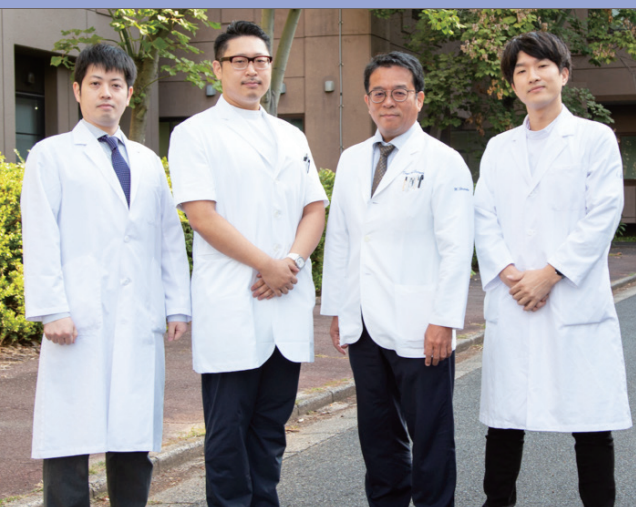
問合せ先 医療安全支援担当 TEL: 0853-20-2066





ご報告

島大病院ニュース 2024年12月



肝・胆・膵外科メンバー



山陰地方における 肝移植再開プロジェクト

クラウドファンディングページTOP画像

肝移植再開に向けてクラウドファンディング実施中です！

肝・胆・膵外科 診療科長	ひだか 日高	まさあき 匡章
副診療科長	きし 岸	たかし 隆

当院は、1989年に日本第1例目の生体肝移植を行った施設として知られていますが、以降は専門医の不在などにより肝移植を実施できずにいました。

2023年4月に肝移植を専門としている日高匡章が当科の教授に赴任し、当院での肝移植再開を目指して体制作り、若手外科医の教育など様々な取り組みをして参りました。

肝移植を安全に再開、成功させるためには体制作りや人材の教育のみならず、移植に必要な手術機材の充足が必要と考えております。医療機器は高額なものが多く、購入に関して必要なものをすべて揃えることは困難です。そのため、今回クラウドファンディングを企画し、資金の獲得を試みています。

READYFORでのクラウドファンディングページにて「山陰の肝移植再開プロジェクト！—若手医療者・外科医育成—」という題目で2024年11月18日(月)よりプロジェクトを開始しています。2025年1月16日(木)まで実施しており、目標金額は700万円で、手術機材購入や人材育成を目的とし、来年度中に、第一例目の手術を予定しております。

是非ページを確認いただき、このプロジェクトの趣旨に賛同頂けた皆様方からのご支援で、成功に導けたらと考えております。当院関係者や他院医療関係者、地域の方々の皆さまのご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。また、SNS等での情報発信にて企画に協力していただける方、ぜひご連絡ください。

山陰の肝移植再開プロジェクト！
—若手医療者・外科医育成—
クラウドファンディングページ▶



問合せ先 肝・胆・膵外科 医局 (担当: 岸) TEL: 0853-20-2232
E-mail tk.kishi123@med.shimane-u.ac.jp



2024年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2024年12月



持続可能な地域医療に向けた取り組み ～よしかオータムセミナー開催～

総合診療医センター 助教 さかくち こうた
坂口 公太

10月5日(土)、吉賀町において「よしかオータムセミナー」が開催されました。本セミナーは、吉賀の地における持続可能な医療の実現を目指し、しまね総合診療医センター、よしか病院、吉賀町が協力して企画したものです。

当日は吉賀町だけでなく、益田圏域からも医療関係者や行政職員、学生など幅広い立場の方々が総勢70名集まりました。

第1部では、地域医療における総合診療医の役割や益田圏域の課題、小児診療について議論が展開されました。講師の話から多くの参加者が新たな「気づき」を得るとともに、それぞれの「地域医療のあり方」の解像度が高まったように感じられました。

第2部では、「ウェルビーイング」をテーマに対話を行い、地域で活躍する医療従事者以外の方との交流を通じて、人生や仕事の意義を深く考える機会となりました。「医療」という枠組みを越え、「地域の中の医療」という視点での連携の重要性が共有され、前に進む力を得る場となりました。

本セミナーを通じて、地域医療の未来に向けた大きな一歩が踏み出されたと感じています。今後も当センターは、大学だけに留まらず地域医療機関との連携を強化し、地域住民に安心・安全を届ける総合診療医の育成に向けて活動して参ります。



第2部での対話と交流の様子



「あなたにとって『総合診療』とはどんなイメージですか?—文字で表現してみよう!」に対して開始前(黄)とセミナー後(青)の変化

問合せ先 総合診療医センター TEL: 0853-20-2217



2024年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





「いい医療の日」に健康講座を開催しました

糖尿病看護認定看護師	いしかわ 石川	まりこ 万里子
糖尿病看護認定看護師	いがき 井垣	ゆうすけ 友輔
日本糖尿病指導療法士(看護師)	はやし 林	ちづる 千鶴

「いい医療の日」とされている11月1日(金)に、健康について地域の皆さんと看護師と一緒に考える企画をしています。

今年は「自分の足で歩き続けるための足のケア」の内容にて、ミニ健康講座と個別相談を開催しました。当日は、午前中に2回開催し、病院1階正面玄関ホールには多くの方が集まってくださいました(写真1)。

開始前から集まってくださった方や、受診の合間に立ち寄ってくださった方、熱心にパンフレットを読んでもくださる方など多くの方々に興味を持っていただきました。講演後には、「クリーム塗らなくちゃね」「靴ひもを結んでみるわ」など感想を頂き、皆さんの健康に対する意識の高さを感じ嬉しく思うと同時に、個別相談では更に詳しい内容を希望されていることを知る機会となりました(写真2、3)。

当院には、沢山の専門看護師、認定看護師が在籍しており、それぞれの専門知識を持って活動をしています。地域の皆さんの健康を願って、気軽に立ち寄っていただけるように健康講座を今後も実施していきたいと思っています。「こんな話を聞きたい」などございましたら、お気軽にお声がけください。



講義風景



足の個別相談

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478

